



TITLE:

白人[退]却の朝鮮・満洲(一佛人記
[者]の満鮮[視]察記)

AUTHOR(S):

高木, 直明

CITATION:

高木, 直明. 白人[退]却の朝鮮・満洲(一佛人記[者]の満鮮[視]察記). 地球
1935, 24(5): 367-381

ISSUE DATE:

1935-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184498>

RIGHT:

の位置は明かでないが七〇〇年後に大活動が起るならば山腹噴火がなほ可能と思はれる。

三、次の大噴火に於いて大正熔岩より鹽基性なる熔岩が流出されるなら、最早其の噴火は今迄の櫻島火山の活動として取扱はれる事が出来ぬ。此の如き大噴火の起るべき時期は豫斷を許さぬが、一九七三年頃より以後に繼續すべき休止期の永き程爆發性となるべきである。

四、大正噴火によつて沈降せる櫻島及び鹿兒

島灣北半地域の上昇は未だ其の沈降量の半を恢復せるに過ぎざるを以つて地力學的に近く大噴火が起るものとは考へられぬ。

五、次の大活動も有史時代の例の如く前驅たる小噴火を持つか少くとも火山性地震の頻發を以つて前兆が示される。

因に櫻島の綜合的火山地質學的報告は最近雜誌「火山」第二卷三號上に「日本火山誌」第一輯として編輯された。

白人退却の朝鮮・滿洲

(一佛人記者の滿鮮視察記)

高 木 直 明

日本の滿鮮拓殖の動機

遠くから物を眺めてゐる歐洲人には、最初に朝鮮、次で滿洲、そして數週間前からは滿洲に

隣接する支那河北地方へと延びる日本のアジャ大陸への膨脹の動機は、人口の過剰と(一年に百萬人増加)、この過剰人口を收容し養ふべき土

地を海外に求めんとする日本の意圖にあると思はれるであらう。併しこれは甚だ皮相な見解である。日本は事實、まだ／＼住民を養ひ得るのである。最近數年間の農業技術の發達は、稻田面積に於て約二割、收穫高に於て約五割を増加するの結果を得た。故に日本に於てはフランスの小麥と同様、これ以上の増收を計る必要はない、問題は過剰米を如何に處分するかにある。

次にアジア大陸への膨脹を促すものは、大量移民の必要ではない。六千五百餘萬人の内海外に居住する日本人の數は僅々百餘萬に過ぎぬ實狀である。日本人は決して移住に適する國民ではない。氣候の變化が他の如何なる國民よりも鬼門である。しかも朝鮮・滿洲何れも冬季は寒さがとても厳しい土地であるから、木と紙の家に住んで寒さに對する抵抗力の薄弱な日本の農民には到底寄り附けない。その上、日本の農民、都會人は他の國民とは大いに風俗習慣を異にし、しかもその生活様式を容易に棄て得ない。

更に又、アジア大陸への移住困難の最も根本的な理由は、朝鮮・滿洲の勞働賃銀の低廉なところである。朝鮮人・滿洲人の標準生活費は日本人の半額以下で足る。こゝから猛烈な競争が起る。その結果單に日本の農民や勞働者が國外で生活の糧を稼ぐことが不可能になるのみならず、日本が新しく土地を併合すればする程益々勞銀の低廉な勞働者が續々日本へ移住することとなり、日本から大陸へ移住するどころの話ではない。かういふ譯で一九一七年から一九二七年まで百萬人以上の朝鮮人が勞働者として日本へ稼ぎに来てゐる。そして近年歐洲諸國が外國移民に對して制定したものと類似の新移民制限法があるにも係らず、内約三十萬人が内地に定住した。

海外に居住する日本人百萬人の内約半數は官吏及び軍人で、十萬内至二十萬が商人、残り約三十萬人が眞の農民である。

故に日本膨脹の眞の原因は、大陸に於ける國

防上の安全を確保し、將來起り得べき他國の侵略、殊に航空機による襲撃を不可能ならしめんとする欲望と、今一つは餘りに勞働賃銀の高い歐洲のどの國から買ふよりも安價で、工業用原料を得る必要に迫られてゐるからである。

滿洲の占領

日本の膨脹（これは必然的歸結として白人の退却となるのであるが）を十分に了解するためには最近四十年間に起つた重要事件を想起する必要がある。

一八九六年、ロシヤはシベリヤ鐵道建設に續いて支那領土である滿洲に縱斷鐵道敷設權を獲得し、附屬地を設けると共に、北方ではハルビン・長春（今の新京）・奉天、南方では大連等の市街を或は建設し或は發達せしめてこれを主要停車場とした。ロシヤとのこの隣接關係は日本の國防を甚だ不安ならしめ遂に一九〇四―五年の日露戰爭となつた。その結果日本は朝鮮の保護權を獲得し、（一九一〇年朝鮮を併合した。）滿

洲に於てはこの鐵道の南半分即ち長春より大連までが日本の勢力下に入つた。これが後に至つて日本膨脹の基點となるのである。

一九三一年には日本は滿洲の武力占領を實行し、併合でもなければ勿論保護でもない一種の形式の下に滿洲の實權を握つた。次で今年一九三五年には、ロシヤをして、その最後の基點たる東支鐵道を讓渡するの止むなきに至らしめた。ソヴェット當局の手により引揚げは最近終了したが、これでロシヤ人の滿洲退却が完了した譯である。

最後に一九一四年の世界大戰の結果、日本は太平洋にあつた獨逸領カロリン・マーシャル・マリヤナの諸島を占領し、後これ等諸島の委任統治權を獲得した事實も忘れてはならない。

以上は、極めて簡單ではあるが最近數十年間に於ける白人のアジヤ退却の歴史である。しかもその影響するところ甚だ大なるものがある。伊・エ紛爭に對する日本の態度はこの歴史を再

び今日のトピックたらしむるに十分であらう。

朝鮮にて

關釜連絡船昌慶丸で下關出帆、翌早朝釜山に上陸した。上陸して一番最初に話しかけて來たのは例の如く日本の一官憲である。彼は懇慫に名刺を差し出し、我々にも名刺を出さんことを乞ふ。物柔らかな調子で話を始める。甚だ婉曲に我々の旅行に就て娓娓と質問をする。余はこの日本官憲の態度が挑戰的だとも惡意があるとも云ふのではないが、無遠慮に絶えず監視されるのは如何に辛抱強い旅行者でもうんざりしてしまふ。

釜山から汽車に乗ること數時間にして京城に着く。人口三十五萬の内日本人が八萬を占めてゐる。この街は最近數年間に目覺ましい發展をしたけれども日本内地の同じ位の都會に較べると未だ遙かに非近代的である。二十年近くもこの地に在住する一フランス商人は朝鮮に於ける日本人の努力を詳しく語つて呉れた。

占領當初にあつては、武力が行使された。しかし、朝鮮人位に進んだ人民に對してこのシテムを用ひることは、徒らに憎惡の念を強め溝を深め、内地人・鮮人兩者の間を益々離隔せしめるに過ぎぬことを悟つた日本人は、徐々に統治法を緩和していつた。今日でもまだ朝鮮人全部を心服せしめるまでには到つてゐないが多數の朝鮮人は彼等獨力では到底今日の如き泰平と經濟的發展を遂げることは出來なかつたであらうといふことは認めてゐる。爾來朝鮮に居住する二千二百萬の人々は完全なる平和を享受してゐる。鐵道・道路・電燈・電話・學校等到處に創設され或は擴張された。金山・棉花栽培・牧畜・冶金工業・炭坑、特に農業は素晴らしい發達を遂げた。斯くの如く繁榮を極めてゐる現在では此處には、失業も生活難もない、豫算には赤字がない。昨年來米價が五割近くも騰貴して懷工合も惡くない。ところで日本は朝鮮米の内地移出高を制限してゐるがこれは即ち日本膨脹の

原因が決して食糧を求めるにあるのではないことを物語るものである。關稅率は日本に對しても他の國々に對しても同率ではあるが、日本に近いのと、日本物價の價格低廉の爲、日本は他の國との競争には何らの懸念もない。

とは云つても日本は朝鮮統治上幾多の困難に遭遇しつゝある。その一つは、内地人が盛に土地を買ふために土地を失つた朝鮮人が増加することである。これと同一の問題がパレスタインにも起つた。ユダヤ人がアラビヤ人から大量の土地を買つたために、アラビヤ人は遂に法律上土地所有權を喪失し、折角手に入れた金も消費してしまつたとなると忽ち生活の糧を得ることが出来ない。その爲に彼等はいつの間にか社會の脅威となり、安寧秩序紊亂の因となつたのである。朝鮮にも約二十萬人の農民がこれと似た状態にある。近代的信仰たる共產主義がこの間隙に乗じて彼等農民の間に急速にひろがつた。

今一つの困難は、滿洲に於ける場合と同様、

ある種の産業の發達である。内地に比し勞銀が半値以下であるために、日本にとつて恐るべき脅威となる可能性がある。京城では鮮人勞働者は一日三―四フランを得、一ヶ月約百フランで樂に生活してゐる。鮮人農夫は月五十フランもあれば家族を養ひ得る。

日本人の力で今日の發達が成し遂げられたのを目撃してゐる朝鮮人連は日本の占領を感謝してゐる。これに反し青年達は（喉もと過ぐれば暑さ忘れるで）最早日本の保護など必要としない、嫌々ながら保護されてゐるのだとまで斷言する。然し一般人民との關係は相當圓滑にいつてゐる。フランスがアルジェリヤ・モロッコ・印度支那等に於て行つてゐると同様、朝鮮に於ても大部分の公職を鮮人自身の手に委託し得る程である。

數日の滯在で、この國が極めてよく統治されてゐる、多數の朝鮮人は餘りによく統治され過ぎてゐるとさへ云ふであらうが、兎に角朝鮮は

卓越せる施政方針と順調なる經濟狀態にあるとの印象を與へられた。併し今日では日本膨脹の關心は全部滿洲に集まつてゐる。

日 滿 提 携

日本人と共に滿洲國を語る時、相手を怒らさないと思ふならば決して「貴國の植民地」とか「貴國の保護國」といつた言葉を用ひてはならない。何となれば總ての日本人が確信を以て、滿洲國は完全な獨立國である、單に日本と共同利害の條約に調印してゐるに過ぎぬと斷言して憚からぬからである。この條約、否議定書は一九三二年九月十五日に締結されたもので、軍事同盟の名によつて、必要期間日本にその軍隊を駐屯せしむるの權利を與へ、外國のすべての侵略に對する國防を委託してゐる。

アジアに於ては、言葉が歐洲に於けるよりも遙かに大きな役割を演ずる。他國軍隊が嚴然と永久的に駐屯する國に「獨立」といふ形容詞を附けることを許してゐるのだから。しかし列國

はこの術語に、かゝる更改をなすことには未だ賛成してゐないと信すべきであらう、サンサルヴアドルを除いては今日まで、この新國家を正式に承認した國は一國もないからである。

然らば日本は滿洲國が列國によつて承認されるに至ることを眞に希望してゐるや否や、疑なきを得ない。若し承認されれば列國の外交的代表者領事が駐在することになり、日本はこの新國家と關係を有する唯一の國ではなくなるからである。議定書によつて總ての國に對し門戸開放の主義が認められてゐるのであるから、新しく關係を結べば他の列國も亦僅かながらこの國の事業に割り込み得る。故に支那との利害關係が英米程緊密でないフランスはもと自由遠慮なく、他に率先して事態を認容し實際的な關係を結ぶべきである。現在の事態はソヴィエットロシアの場合と同様早晩全世界の國々がこれを認めるに至るであらう。

兎に角滿洲國自身が獨立を宣言し日本がその

宣言の確實なることを是認した以上、我々が尙
康徳皇帝以上に帝國主義者であることは少し變
ではなからうか。

滿洲皇帝に謁を賜ふ

日本又は滿洲に在住する多數の歐洲人は、日
本の終局の目的は、皇帝を北京の帝位におつが
せ申し上げるにあると斷言してゐる。併し何人
も確信をもつて日本國策の秘密とその將來を知
つてゐると高言し得るものはない。

新京(昔の長春)は建設途上の滿洲國の首府で
現在はこの地に皇帝が在す。大和ホテルに居る
と滿洲國外交部から電話がかゝつた、明朝謁見
を賜ふとの話である。夕方頃日本人と支那人と
二名の通譯官が來訪し來り謁見に關する儀禮を
詳しく教へて呉れた。余は既に謁見の話を二三
讀んでゐたので明日はこの二人に伴はれて拜謁
するのだと思つた。支那人の方が余の言葉を通
譯し、日本人の方はそれを聞いてゐるのである
然るに日本御訪問以來これが改められ、支那人

の通譯官のみが謁見に同伴するとのことであ
る。

皇帝の御住居は學校の様な建物で支那皇帝の
後繼者には相應しからぬ假の御殿である。皇帝
は狭い政務室で黒のフロックコートを召され、椅
子の前に立ちちになつた儘、余が謁謁の御禮を
英語で申し上げるのをお聞きになつてゐる。次
で皇帝は御前に坐つて話をするようにと仰せら
れた。話は約三十分以上も續いたが其の間に役
割が逆になることが屢あつた。世界の情勢に關
し特に深い御興味をお持ちになり余が訪れた國
々に就て親しく種々の御質問を發せられた。皇
帝は英語は頗る御堪能に渡らせられるのである
が儀禮上、通譯官が余の言葉を支那語に翻譯す
る。英語で申し上げてゐる時に特に興味を御覺
えになつた箇所では必ず感歎の御言葉を御洩し
になるが通譯官が、通譯申し上げる場合にも皇
帝は前と同一の箇所では再び同一の御言葉を御
繰返しになる。帝王の儀禮はこれを必要とする

のであらうか。日本御訪問の話が出た時、

皇帝は、「元首相互の訪問は歐洲に於ては屢々行はれることであるがアジヤに於ては未曾有の出来事であつて、かゝる會見は日滿兩國の將來に歴史的に重大なる意義を與へるものである。」と仰せられた。又日本に於て皇帝並びに隨員が受けられた熱誠なる歓迎を心から喜ぶとも仰せられた。謁見を終らんとするに當り皇帝はいとも御氣輕に侍從をお召しになり一葉の御寫眞をお取り寄せになり御署名の上下賜された。

新京滞在中に内閣の更迭が行はれた。發表された理由によると、閣員の年齢を若くする必要からだといふ。余は新總理大臣張景惠將軍を訪ねた。日本人の次官（滿洲國政府の各省には日本人の次官が居て省の實權を握つてゐる。）に案内されて將軍の家へ行つた。長い支那服を着た將軍は外國語が少しも話せないと通譯させた。餘りに簡明な談話から却て色々な不都合を生むやうなことがあつてはとの懸念を持つたのであ

らう。

三十を越すか越さぬ位の非常に若い文政部大臣（阮振鐸）は極めて無邪氣な調子で、何分生れて始めて大臣になつたので外人記者を如何に待遇すべきか又何を話すべきか判らない、まあ茶でも一杯飲んで呉れと云つた。

日本大使關東軍司令官南將軍は快く余を迎へ色々質問に答へて余の好奇心を満足させようとする。將軍は滿洲地圖の前に立ち、少しも隠す所なく滿洲の匪賊討伐作戰を詳細に説明する。「匪賊は主として大連の東方及び新京の東北方の山地に住んでゐる。その數は漸次減少しつつあるが我軍の損害も同様減少しつつあつて、一九三二年には二千名の兵が戦死したが一九三四年には二百名、一九三五年には未だ二十名を越えてゐない。匪賊の活動は特に夏活潑となる。早魃の爲農作物の收穫が不良で食糧の缺乏する時には更に甚だしい。今だに鐵砲や機關銃を持つ匪賊（舊東北軍の殘兵）が山を降り住民や旅行

者を襲撃掠奪を恣にする。其の數は現在約二萬五千位で、時には支那・朝鮮の共產主義者の支援を受けてゐることさへある。住民の保護を一層確實ならしめんが爲、滿洲人は義勇兵團・偵察隊を作り、必要に應じては匪賊討伐にも參加し、日本人に種々の情報を齎す役を務めてゐる。現在では約一萬の滿洲人が兵籍に入つて日本軍と協力してゐる次第である。」

日本の占領により、匪賊の跳梁する地方も農作物の收穫が増加すると共に住民の生活も徐々に安定するであらうから、匪賊も亦武器を手にし危険を冒してまで食糧を漁り糊口の途を求めが必要が無くなるであらう。かくして匪賊商賣もこゝ數年後には昔の語草となり歴史の領域に入る日が来るであらう。

新京の大工事

新京の日本最高代表者(總務長官)長岡氏は余を案内して國都建設工事を見せて呉れた。そのブリンシブルはフランスが北アフリカの都市に

白人退却の朝鮮・滿洲

用ひたのと同じである。舊市街はその儘にしてゐき、都市設計學の最新智識を採り入れ將來の發展膨脹を十分考慮にいたした設計のもとに、野原の真中に新市街を作るのである。コンコルド廣場位の大きさの廣場へ諸官省を集める計畫で二三のものは既に完成してゐる。この大廣場を中心として星形に放射する大道路も目下盛んに工事中である。その他、大公園・五大病院・運動場・競馬場・ゴルフリンク・公設市場・博物館・圖書館・動物園・植物園等も亦設計施行中である。是等の大工事は五ヶ年計畫案によつて同時に着手されたもので、初年度豫算は約三億フランである。

長岡氏の言によれば、日本占領以前の滿洲には百六十一種の貨幣が流通してゐた。日本は是等の貨幣を回收し國家の保證する唯一種類の貨幣を制定し、こゝに始めて滿洲の金融の安全が保證された。

鐵道は全滿洲國內に發達し一日平均數基米の

割合で敷設されてゐる。鐵道工事用特別列車が先づ枕木を運搬して並べると、すぐその上にレールをのせて行く、レールが連結されるともう營業を開始する。かくして鐵道網は三年間に七千基米から一萬基米を突破するの勢である。電

となるであらう。これが總ての歐洲人が知らねばならぬ滿洲國現實の姿である。これは決して極東のみの問題ではない、我々歐洲人自身の運命に重大なる影響を及ぼしたし又將來に於ても及ぼすであらう。

大連と南滿洲鐵道

燈及び瓦斯は他の大部分の事業と同様半專賣即ち政府と民間工業家が參加し全領土内に急速に發達しつつある。六萬基米に達する新道路も五ヶ年内に完成の豫定で約四百萬人の勞働者がこれに従事してゐる。航空網は既に全大都市間を連絡し、七千基米の電信電話新線も五ヶ年内に架設されるであらう。最近まで米國のスタンダード、テキサス兩石油會社及び英國のアジャ石油會社の手にあつた石油は數週間前から滿洲國政府の專賣となり、外國會社は無條件で事業を停止・閉鎖するに決したことは人の知る所である。

以上は目下着々進捗中の大計畫の概要である。數年後完成の曉には滿洲國は極東の一等國

新京から滿洲國の大貿易港大連に行く爲、我々は日本の誇る世界最新式列車「アジャ」に乗つた。これは昨年のシカゴ博覽會で賞讃を博したのと殆ど同じものである。モデルは疑もなく米國であるが建造したのは日本人である。一技師の説明によれば原價はアメリカの原型より十倍以上も安いといふ。窓を閉めておいても車内は常に一定溫度を保つやうに作られ外氣の侵入を避ける爲に手風琴式の幌で各箱が連結されてゐる。平均時速約百基米新京・大連間七百基米を七時間半で走る。

大連には日本國外に於ける最大事業であり、日本膨脹の根幹たる南滿洲鐵道會社がある。滿

鐵は米國の加奈陀太平洋會社の如く鐵道のみならず鐵道沿線の全産業を包括し資本金四十億フラン、その純益年額四億フランに達せんとしてゐる。一幹部の語る所によれば滿洲は日本にとり、印度の英國におけると同様の關係にある、即ち日本の工業用原料品のタンクである。

滿鐵は、ホテル・港灣・鐵・石炭の鑛山・大豆畑・冶金工場・貿易部・百貨店・學校・病院俱樂部・實驗所・化學工業會社・汽船會社等を所有する。滿洲開發の爲如何に整然たる組織的方法を採つてゐるかを知らねば滿鐵の博物館を見るのが一番である。大連博物館には美術は一つもない、その代り滿洲の鑛物・工業製品・農産物等の見本は盡く陳列され、これら産業に関する數多の統計表が掲げられてゐる。こゝで思ひ出すのはソヴィエトロシヤのゴスプランの雰圍氣、五ヶ年計畫の基礎であり、經濟界各部門の要求する年進度を全能力を擧げて科學的に規定する彼の尨大なる組織である。

滿洲産業の王座を占むるものは大豆で滿洲に於ける經濟生活の主役を勤め、日本内地へも盛に移出されてゐる。固くてなか／＼容易に食べられないこの小さな豆が（フランス人の多數は大豆を知らない）驚く程多數の品に變化する。第一に食用、工業用の油が取れる。この油を絞つた後の大豆糟は水壓を加へて壓縮し、瑞西のグルキエール産の乾酪に似た丸い大きなパンの形にする、これは家畜の飼料となる。ドイツ一ヶ國で年に百萬噸以上購入してゐたが今では經濟的窮乏の爲止むなく輸入量を半分に制限してゐる。米國も年五萬噸買ふ。その他大豆からは石鹼及び酪素セルロイドに似たゴム狀物質がとれる、これは日本工業界各方面に無限の需要がある爲盛に製造されてゐる。

大連博物館を訪ねるならば、滿洲に於ける日本の政策は盡く説明されるであらう、何となれば滿洲國は總てのもの、鐵・銅・石炭・酸化マグネシウム・大理石・石英・煙草・棉花・米・

家畜及び數百種の化學製品を出すから。

博物館に附屬して、不斷の活動を續ける二大特別實驗所がある。滿洲國土の富源を如何に利用すべきかと日夜化學的研究を怠らない。百五十人の日本人技師と五十人の滿洲人技師を擁するこの二大實驗所の研究費は年五百萬フランに上る。而してこの費用は政府によつて保證され新發見ある毎に試験研究の後、新工業會社が創立される。これ等の會社は政府と民間資本家とから半分づゝ出資される。滿洲國の合理的開發の爲、日本人によつて採用されてゐるかゝる組織的方法は、そのヒントをドイツから得てゐる點が多々ある。

阿 片 窟

我々は一夜、大連の阿片窟を二三見物した。

阿片窟には色々の等級がある。ブルジョア階級の人々のは一種の俱樂部といふ感があり、小部屋に一人又は二人宛入つて阿片を吸ふ。も少し下の階級の者のは十人宛入れる小さな室が作ら

れてゐる。こゝになると清潔の點も餘程怪しくなる。一番の見ものは苦力の阿片窟で一室に五十人以上も入り木製の仕切板の上で吸ふてゐる。彼等は一煙管につき約五十サンチーム支拂ふ。是等の部屋々々から發散する臭氣と悲惨な光景は、新滿洲國の都市計畫・保健衛生計畫と比較する時實に寒心すべき對照をなしてゐる。

阿片問題を繞り日本新聞と支那新聞の間に猛烈な論争を續けてゐる。支那人は日本人が阿片の傳播を防止せず寧ろ秘かに獎勵してゐると責め、日本人はその禁止に努力しつゝあるが吸飲者の健康を考慮するならば急激なる禁示は却て有害である、漸進的に行はねばならぬと主張する。而して阿片は日本政府の專賣である。一方に於ては、その有害なる所以を説明する爲盛にポスターを出してゐる(殊に學校内に)がしかも毎年阿片專賣により數千萬フランの利益を收めつゝある現狀である。滿洲國內の全大都市に於ては最少限度に許可してゐるが、この悲しむべ

き取引を絶滅せしめるであらうといふ約束を果して日本政府が守るや否やは時が證明するであらう。

ロシアの名残

大連から再び汽車に乗つて北滿洲に向ひ奉天に至る。こゝは日露戦争最後の大會戰が行はれた所、到る處にロシアの足跡を留めてゐる。ゴビ沙漠から吹く風に、黃塵萬丈咫尺を辨ぜざることも屢々ありロンドンの「濃霧」を想はせる程である。馬車・鋪道等既にロシアの雰圍氣を感ずる、乗合馬車はロシア風に馬を繋いだ「イスヴオルチック」であるが馭者はみすぼらしい正真正銘の支那苦力である。こゝには最早ロシア人は一人もゐない。更に北上して新京に至れば初めてロシア人のレストーラン・カバレを見る。

ロシア建築物と日本建築物の相違は兩國の列車の相違同様直ぐ目につく。短軀矮小の日本人は萬事小型に造るが巨軀長身のロシア人はそれに比例して十分のスペースを必要とする。日本

ホテルの部屋は極めて小さくロシアのは廣い。日本の列車はフランスのと同じ大きさであるが遙かに軌道の廣いロシアの列車は五割以上も濶い。ハルビンに到着して直ちに氣附くことはロシア人によつて造られた町の道路は日本の道路よりもずつと幅が廣い。

ハルビン

ハルビンに到着する、風變りな町である。半亞半露の雜種の外觀を呈してゐるのを見るのは我々が最後ではなからうか。我々が通過した後で、と云つても僅か數週間前のことであるがその特色の一半は既に失れてゐるに相違ない。何となれば白色人種と黃色人種との人種劇最後の一幕がこの地で演ぜられたから。

我々がこの町へ來た時はレストーランもカバレも沸き返つてゐた。毎夜ロシア人の客で一杯である。併しこれらのレストーランやカバレにとつてこれが最後の賑ひとなるのではなからうが。今こんなに澤山の客で賑はつてゐたのは、

日本政府が數週間前に買収した東支鐵道の従業員に解雇手當を支拂つたところだつたからである。數日後にはこれらの従業員は、或る者はソ

ヴィエトロシヤへ、或る者は遠い異國の空をさして放浪の旅に出るのであらう。殊に哀れなのはカバレの女性である。踊子であり同時に賣春婦である彼女等もやがては饑餓に苦しむ時が来るであらう。明日のことなどよく／＼せずには唯けふの日を楽しく暮せばよいといふロシヤ流の考で吞氣さうに唱ひ踊つてはゐてもやはり彼等に殘された明日の運命はよく知つてゐる。

東支鐵道は以後北滿鐵道と改稱されるであらうが、この鐵道も我々通過後數日にして完全にロシヤ人の手から日本人の手へ渡された。そして我々は數名のロシヤ従業員によつてサーヴィスされた最後の旅行者である。

是等全従業員は多額の解雇手當を受取つて氣前良く使つてゐる、貯金などソヴィエトロシヤへ持ち歸つたとして何にもならぬと考へてゐる者

が多いやうである。併し一度この線香花火が消えたら明日から如何なるんだらう。

東支鐵道七千の従業員は彼等の給料で直接・間接にハルビン在住七萬のロシヤ人を生活させて來た。今後は彼等従業員の地位はすべて日滿兩國人によつて占められんとしてゐる。それと同時に、無論明らかでないが云はないが、ロシヤ人の占めてゐるこの町の公私の椅子も手の附く所から徐々に日滿兩國人と入れ替へられてしまふだらう。ハルビンのロシヤ居留民は愈々生活の道を奪はれて行く。かくて數年後否恐らく數ヶ月後には、一八九六年に露國皇帝陛下によつて創られた歴史あるこの町で、正業を營んで生活し得るロシヤ人は一人もゐないであらう。遂に白色人種は黄色人種の壓迫を受けて撤退し終らんとしてゐる。恰も嘗てアメリカインディアンが白人侵入の前に退却したのと同じである。丁度その場に行き合せた我々歐洲人にとつては思想・國籍の如何を問はず、悲しくも亦

憂ふべき光景である。

將來に數々の重大問題を殘すこの姿を後にして、我々は黃色人の世界に暇を告げシベリヤ經由歸國の途についた。匪賊の襲來に對して我々

の列車を保護する日滿兩國の兵士が、銃劍を光らせながら無關心に我々を見送つてゐる。

シュレーベル氏極東旅行記抄釋

(イリュストラシヨン誌八月十日號)

南懷仁が支那に紹介した世界地理書に就て (一)

鮎澤 信太郎

目次

- 一、はしがき
- 二、南懷仁略歴
- 三、西方要紀
- 四、坤輿圖說
- 五、坤輿全圖
- 六、坤輿外紀
- 七、東洋史上に及ぼせる影響
- 八、結語

南懷仁が支那に紹介した世界地理書に就て

一、はしがき

新發田收藏の著^{各國}萬國地名捷覽(嘉永癸丑刊)に記す窪田茂遂の序にも、西洋地理學の精詳を記し、つゞいて「如我皇邦、四緣海岸、舉岬、屈曲平直、內地山脈水路、州郡城郭、條分縷折、精于邦人所製之圖數等矣、而尙以禽獸視之可乎、」云々と述べられてゐる如く、江戸時代(支那にては明末より清末に至る時代)世界地理を學ぶ者は